

## 宮崎市立宮崎西中学校の学力向上への取組

### 1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

#### (1) 学力調査からの課題

- ① 成績下位の生徒に基礎・基本の内容を十分身に付けさせることができなかった。
- ② 家庭学習を十分定着させることができなかった。

#### (2) 意識調査結果からの課題

- ① 「テストのやり直し」「復習や反復練習」といった自ら学ぶ力が低い。
- ② 「自己成長力」が低い。

### 2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

#### (1) 学力向上に向けた経営方針

学校経営ビジョンの中で、学力向上に向けての基礎基本の定着のために

- ①各教科の具体的な数値目標の設定
- ②生徒が分かる喜びを体得できるよりよい授業の構築(指導と評価の一体化)
- ③習熟度別少人数指導の充実(国語・数学・英語)

を掲げ、その上に立ち、昨年度の反省を踏まえて、できるだけ個別指導を実施し、家庭学習の充実をさせ、基礎基本の徹底を図る。

#### (2) 教育課程内の取組

課 題	課題解決のための取組	
基礎的・基本的内容の定着	国語	○毎日の漢字ノート提出と週1回の漢字テストを実施する。 ○習熟度別少人数指導を実施する。
	社会	○单元ごとに復習し、小テストを実施して定着を図る。
	数学	○毎時間必ず小テストを実施する。 ○習熟度別少人数指導を実施する。
	理科	○单元末に確認テストを実施する。
	英語	○毎時間小テストを実施し、既習事項の定着を図る。 ○習熟度別少人数指導を実施する。
表現力の向上(英語)	○ワークシートを活用し、既習事項を使って、英作文などに取り組む。	

(3) 教育課程外の取組

指導力向上のための研修の充実(全教科)	○毎週の教科部会の実施(全教科)。
家庭学習の定着	○週末課題に取り組ませる。
学習意欲の向上	○サマースクール(夏休み)の実施。(全教科)
基礎的・基本的内容の定着	○昼休み・放課後等を利用しての個別指導を実施する。(国語、数学、英語)
読解力の育成(国語)	○朝の読書指導の充実。
社会的事象に対する興味や関心の向上(社会)	○朝の会、帰りの会等を通じて、その日世界や日本で起きた諸事象についての話をして、社会的事象に対する興味や関心を高める。
苦手意識の克服(数学)	○昼休みに教科教室を開放し何でも調べ、聞き合える雰囲気づくり。

(4) 保護者・家庭、地域との連携

家庭学習の定着(全教科)	○家庭学習を充実するため定期的に課題を出す。 ○生活振り返り表を活用する。
補充的学習(全教科)	○ボランティアの大学生にサマースクールや定期テスト直前の勉強会に参加してもらい、生徒の学習への支援を行う。

3 成果と課題(今後の取組を含む)

【成果】

- ① 基礎・基本の定着を各教科で工夫して取り組んできた結果、各教科ともその効果が顕著に現れた。
- ② 朝の読書に取り組むことで、落ち着いた状態で1日をスタートでき、その後の授業への取組にもよい影響を与えた。
- ③ 国語・数学・英語においては、昼休みや放課後に、小テストの再テストや課題のやり直し等の個別指導を徹底して行ったことで、苦手意識をもつ生徒の学力を向上させることができた。
- ④ 週末課題の提出を徹底させ、その点検と自己採点を確実に行ったことが、基礎学力の定着につながった。
- ⑤ 夏休みの「サマースクール」に学習支援ボランティアが参加したことで、個別指導を行うことができ、学力向上に役に立った。
- ⑥ 教科部会が、毎週1回時間割に設定されていることにより、教科指導上の問題点等の意見交換と共通理解が図られ、教師の意識の向上につながった。

【課題】

- ① 教科教室の利用が、限定的になっており、目標としている「生徒が自主的に学習に利用する」ところまでには至っていない。
- ② 「生活振り返り表」の利用の促進。

【今後の取組】

- ① 各教科教室に年間計画を掲示し、生徒が自主的に学習に取り組めるような教科教室の活用を工夫する。
- ② 家庭との連携を密にし、家庭学習の充実を図るため、「生活振り返り表」の活用を工夫していく。